

新規採用の決断を

秋の交渉で迫る

可燃収集は
全域直営を維持

2021年度の中野区清掃事業は、可燃ごみについては全域区集で行っており、作業計画上の稼働は【小ブ34台（曜日後半28台）、小特14台、新大型2台】のうち直営車は9台、計画外で軽小が7台稼働しています。前半はW作業で6回、後半はW作業5回の計画です。不燃ごみについては2015年度より全域車付雇上となっており、2020年度より全量資源化を行っています。資源（容りプラ等）・粗大は委託で行って

います。可燃ごみは、ごみ量の推移に対応して2019年度に小ブ2台が削減され今に至っていますが、戸別収集の増加等、収集現場の実態は机上の計算だけでは充分ではありません。小ブ2台削減による影響や昨年来のコロナ禍による影響、新型コロナウイルス感染症対策、夏場の熱中症対策も併せて、ごみの増量期には対策車を要求して対応し、曜日後半の収集5回計画を6回計画に変更して行っています。祝日作業計画については基本的な考え方として、減車無しの通常作業計画で行っています。また、ここ数年の猛暑が続く夏場の熱中症対策における最大の対策は作業軽減ですので、人員に余裕がある時にW作

業をシングル作業に変更して収集作業の負担軽減を行っています。

今年中に新規採用の決断を迫る

中野区は区移管以降新規採用を行っていない区の一つです。今年度9人の欠員分は会計年度任用職員と派遣職員で補っております。職員の平均年齢が50代中盤になってきており、今年度から大量退職が始まります（2023年度より定年が延長されていくが運用の実態は変わらない）。30代、40代職員の職場を守るために、また、培ってきた清掃事業を継承していくために、今年度も当局に新規採用を強く求めています。水面下ではありますが一昨年から、中野区として清掃事

業のあり方が検討されている状況もありますので、秋の交渉においても、今年度の新規採用決断を当局に迫りたいと思います。

高齢職員の職域確保を

また、今後の課題としても上げられるのは高齢職員の職域確保です。現在の任用職員は主に軽小の上乗りの作業を行っています。が、大量退職時代を迎えるにあたり、体力面を考慮し、高齢でのプレス車による収集は避けるよう取組まなければなりません。昨年度の要求が実り、軽小の稼働台数が1台増え、通常の収集以外に二階以上の訪問収集や狭小路地収集の手伝いを行っています。これは高齢職員の職域確保になることが出来ませんが、受け皿としてはまだ足りないのです、これから軽小の稼働を増やす等の取組みを強化していきます。

（中野区担当中執 西大條 剛）



準備していないことはできない

重要なのは「災害対応原理・システム・訓練」の3点

都本部2021第1回自治研連続学習会が7月10日（土）13時半から日本教育会館で開催し、わが組合からはコロナ禍を踏まえ、対面とYouTubeで参加しました。

講師の東大大学院沼田准教授からは、「世界中で災害が多発する中で、正解のない、災害対策が求められる時代に突入した。日本も毎年多くの災害に苦しんでいるが、米国のように、標準システム（ICS）と災

害トレーニングセンターがないため、効率的な災害対応の向上が難しい」また、「発災後の混乱の中で、多くの行政職員は茫然となる。都道府県や中央政府であつても、改善の余地は大きい」とし、講演タイトル

「巨大災害では多様な職員の参画による組織の総合力

ある資源の保護や環境汚染問題に対する地球環境の保護、省資源化や廃棄物の減量・リサイクルという世論の盛り上がりの中で、廃棄物処理法をはじめ廃棄物に関わる法整備が進められてきています。このような状況の中、大都市共闘清掃部

会は今度の廃棄物対策については、単に行政システムや排出者の意識のみに視点を充てるのではなく、社会・経済システムのあり方と合わせた廃棄物行政の確立が必要であるとして、自治

労が進めてきた「環境保全・循環型社会の確立」に向け、積極的に取組んできました。

（中野区担当中執 西大條 剛）

運動方針を確立 職場確保と 新規採用の獲得を

自治労大都市
共闘清掃部会

自治労大都市共闘清掃部会第32回総会が7月10日（土）から11日（日）にかけて広島で開催し、2021年度の総括と向こう1年間の方針が確立されました。わが組合からは、江森委員長（副議長）と多田書記長（幹事）が組織を代表し参加しました。

廃棄物行政は現在、限り

ある資源の保護や環境汚染問題に対する地球環境の保護、省資源化や廃棄物の減量・リサイクルという世論の盛り上がりの中で、廃棄物処理法をはじめ廃棄物に関わる法整備が進められてきています。このような状況の中、大都市共闘清掃部

会は今度の廃棄物対策については、単に行政システムや排出者の意識のみに視点を充てるのではなく、社会・経済システムのあり方と合わせた廃棄物行政の確立が必要であるとして、自治

労が進めてきた「環境保全・循環型社会の確立」に向け、積極的に取組んできました。



▲講師の沼田准教授



▲聞き入る参加者たち

都本部
自治研学習会

機関紙講座の復活を 伝えることは つくること

情報宣伝セミナー

自治労全国情報宣伝セミナーが7月15日（木）13時からWebにて開催され、わが組合からも機関紙作りに興味のある!?中執を中心に参加しました。とりわけ全体会では機関紙編集クラブの「辻よしはる」講師の熟練匠な話により、参加者からは「なるほど」「これなら私にも出来る」「やっぱり機関紙講座は必要だ」などの声があがりました。かつて開催していた「機関紙講座」の復活を望んでいる支部も多いのは本部としても認識しています。情報宣伝は組合運動のキモと言っても過言ではありません。コロナ禍を踏まえ、Webによる活用も視野に入れ、開催に向け検討していきたいと思っています。

セミナー資料が欲しい方は、支部役員を通じて渡辺書記次長まで一報をお願いします。（泉田 和明）

（荒川区担当中執 恵良 伸介）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

（中野区担当中執 西大條 剛）

いま

No.33

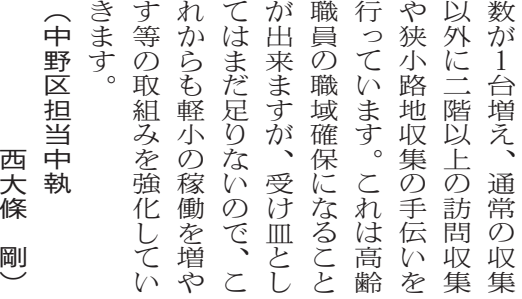
清掃事業は...

中野区

公共サービスを守る

人員確保

を求めよう



（中野区担当中執 西大條 剛）

2022年度役員体制	
部会長	松本 賀仁
副部会長	田中 有人
〃	江森 秀稔
〃	高橋 雄二
〃	小西 正道
〃	北川 滋雄
事務局長	橋本 慎吾



▲機関紙講座はやっぱり必要だ

（ひとこと）

▼昨年の正月休み明けに妻がコロナに感染しました。すぐに私と子供は症状がありませんでしたがPCR検査を保健所にお願ひしました。ところが、保健所は検査をしなくても濃厚接触者になりはしないので検査しませんと。▼やっぱり世間で噂するように検査数を増やしたくないのだと思いました。保健所が大変なのは分かりますが、とても不安でした。妻は保健所判断で自宅療養になりました。コロナ陽性者と同じ空間で過ごす、とても怖いのです。いつ感染するか分からない、買い物に行っていないのか、分からないことばかり。妻が発症から14日間、社会復帰。私と子供は発症の可能性があるので、そこから14日間自宅待機。今回、一番の被害者は子供だと思っています。大好きな保育園に行けず、友達にも会えず、外で遊ぶにもいつもの公園ではなく人がいない公園を選んで遊びました。

▼コロナを怖がり過ぎることはいけないと思いますが、罹患すると家族に迷惑がかかるという事がよく理解できました。まだまだコロナ禍は続きますが、皆さん気を付けて過ごしてください。

（荒川区担当中執 恵良 伸介）